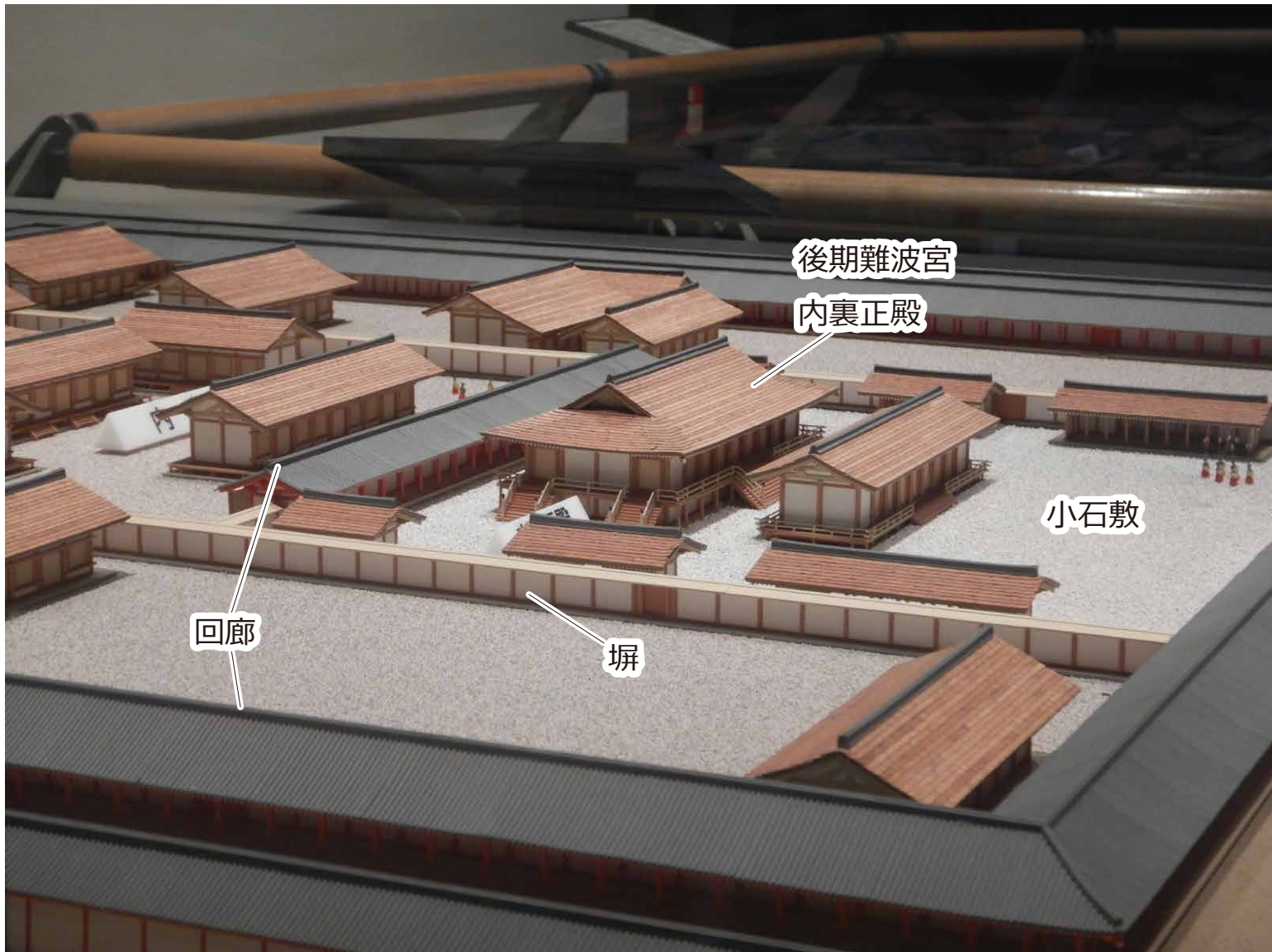


特定公園施設の遺構表示に係る資料（参考）

令和4年3月

建設局公園緑化部公園課

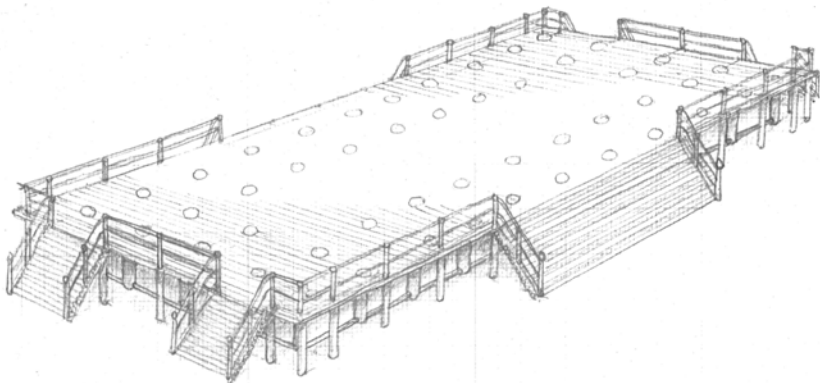
## 1. 遺構表示を行う北部ブロック（内裏エリア）の後期難波宮期のイメージ



※後期難波宮 内裏エリアの模型（大阪歴史博物館 10階に展示）

## 2. 遺構表示 後期難波宮内裏正殿

### 2.1. 後期難波宮内裏正殿のイメージ



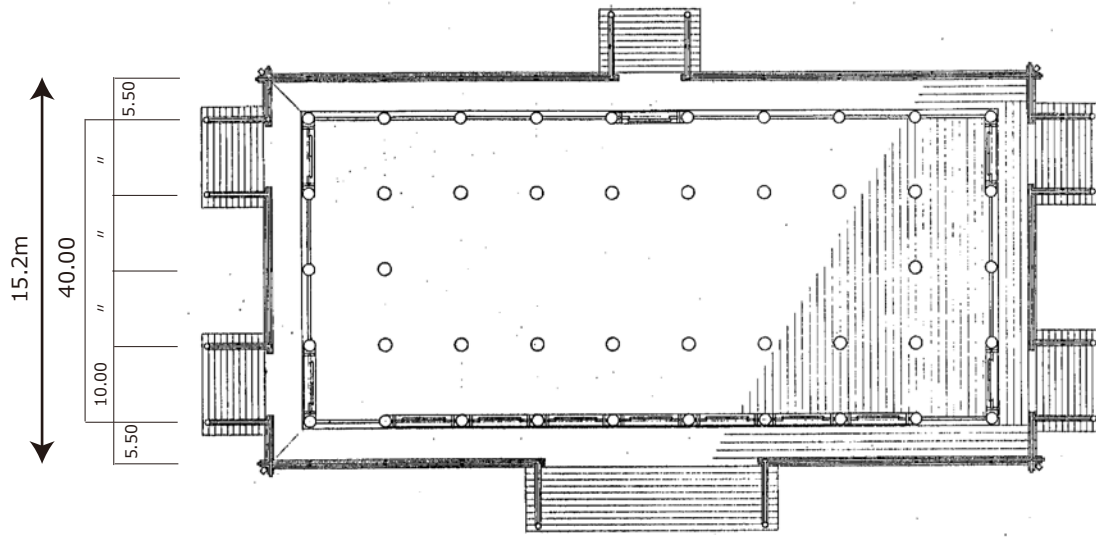
内裏正殿の整備のイメージ



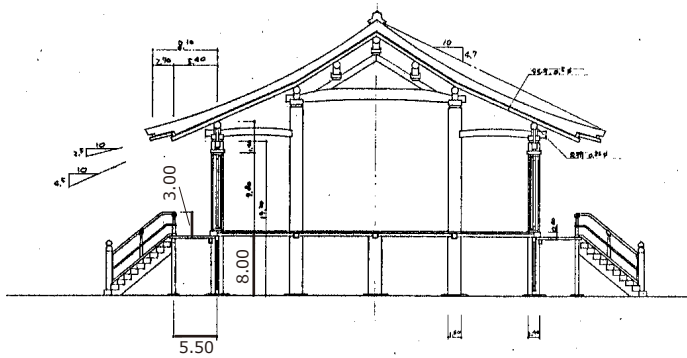
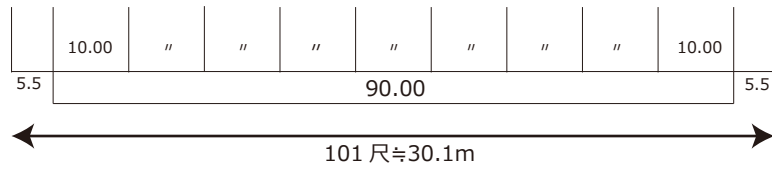
内裏正殿のイメージ 参考：京都御所 紫宸殿

※内裏正殿とは、宮殿エリアにおける天皇の生活空間（内裏、現在の皇居）の中で、中心となる建物。掘立柱建築で、上部構造は高床の板敷で、屋根は檜皮葺であった。

## 2.2. 遺構表示 後期難波宮の内裏正殿の寸法



※単位 (尺)  
1 尺≒29.8 cm



- ・内裏正殿の床下部分を復元する。
- ・材質は木質（風）とする。
- ・上面の規模：30.1m×15.2m  
高さ：2.4m
- ・階段も復元。
- ・高欄も設置。
- ・床面には柱の跡を表示。
- ・床下の側（庇）柱間は白い壁（白壁の外観をもつもの材質は問わない）で閉塞する。

## 2.3. 後期難波宮 内裏正殿の高欄イメージ

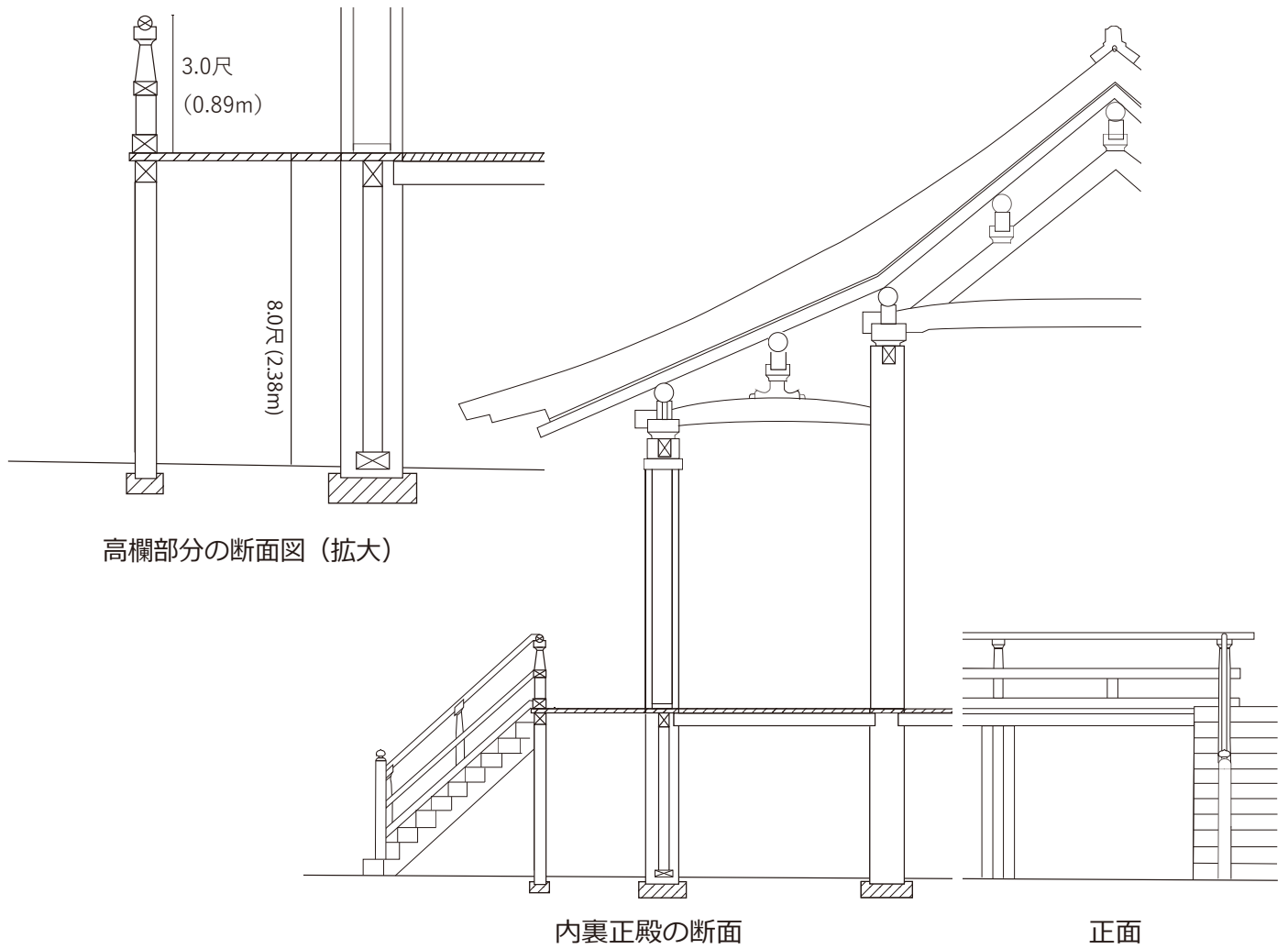


高欄とは  
宮殿・堂舎等の縁や廊下・  
階段等の両側に設けられた  
欄干。

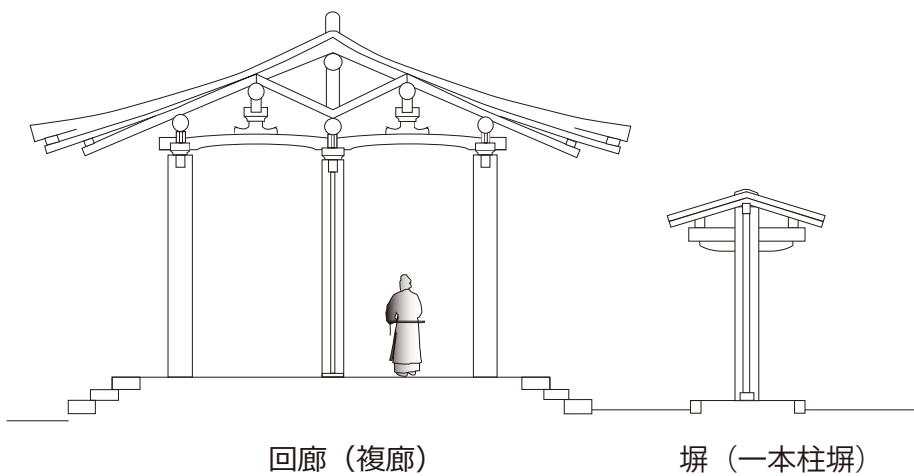
参考

平城宮 内裏正殿模型の写真

## 2.4. 内裏正殿の高欄の寸法と図



## 3. 遺構表示 回廊等 (塀を含む)



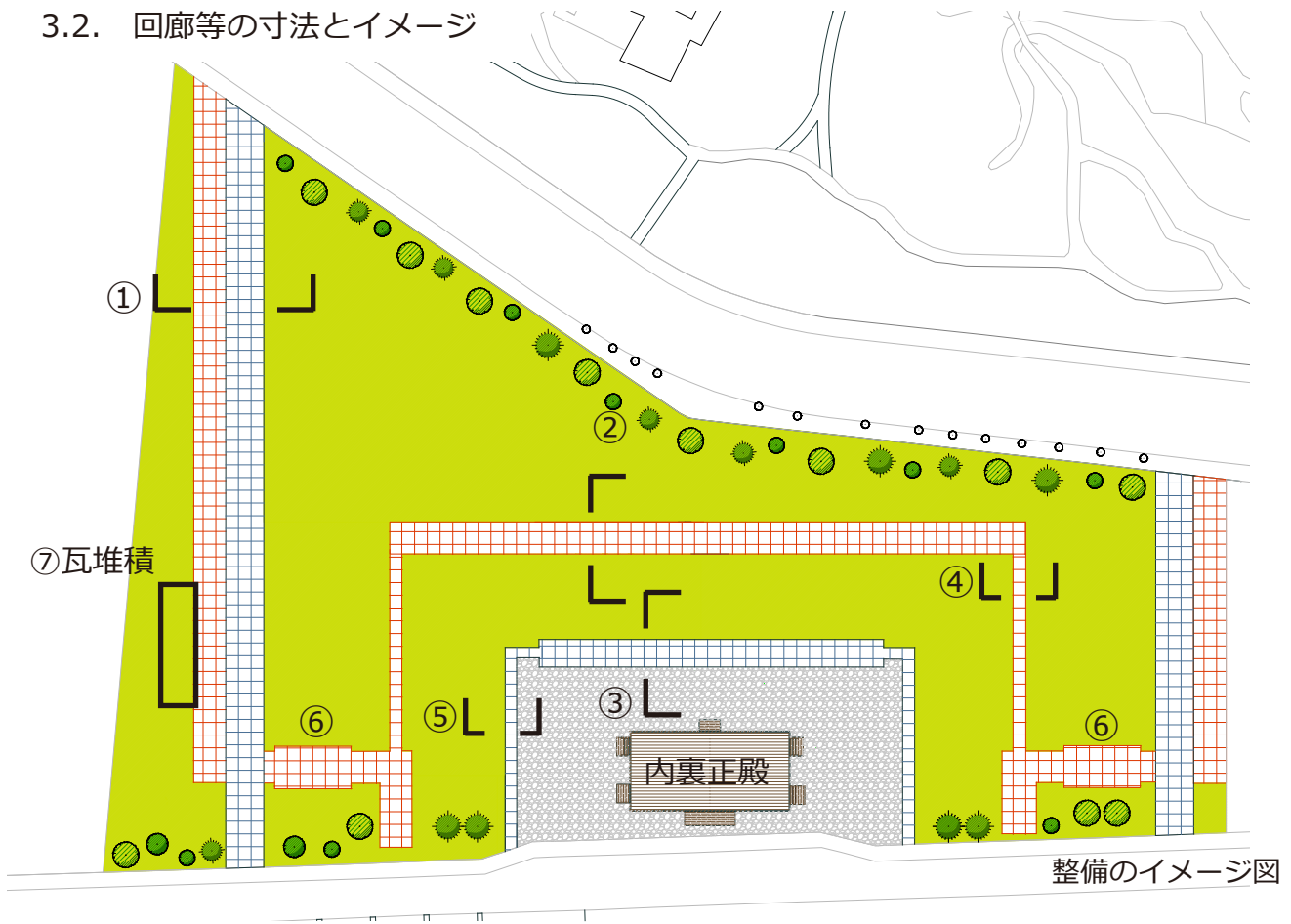
### 3.1. 回廊 (複廊) と塀について

寺院や宮殿などの区画を取り囲む廊下を回廊という。難波宮の内裏エリアの回廊は複廊（梁間が2間あり外側、内側とも吹放しで人が往来できる。中央の柱筋は壁か窓になる）で、囲まれていた。

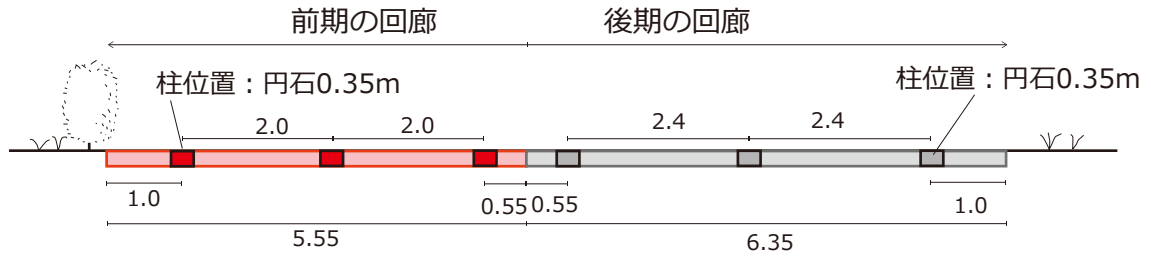
塀は等間隔に並ぶ柱の間を土壁とし表面を漆喰塗りとし屋根をかける。

発掘調査で見つかった柱穴の位置を復元し、複廊と塀の遺構表示を行う。

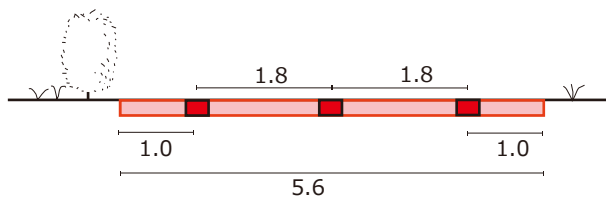
### 3.2. 回廊等の寸法とイメージ



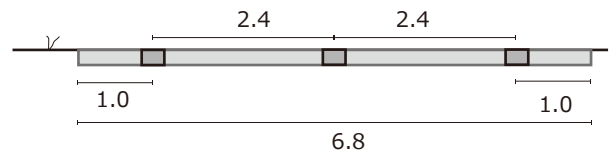
①前期と後期の回廊が並ぶ部分の断面図



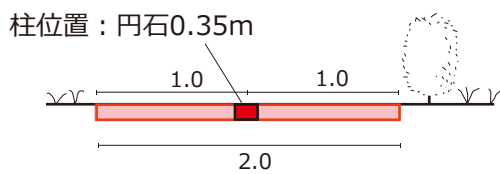
②前期の回廊の断面図(隣接しない部分)



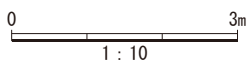
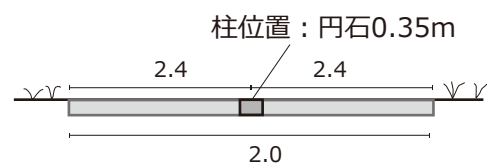
③後期の回廊の断面図(隣接しない部分)

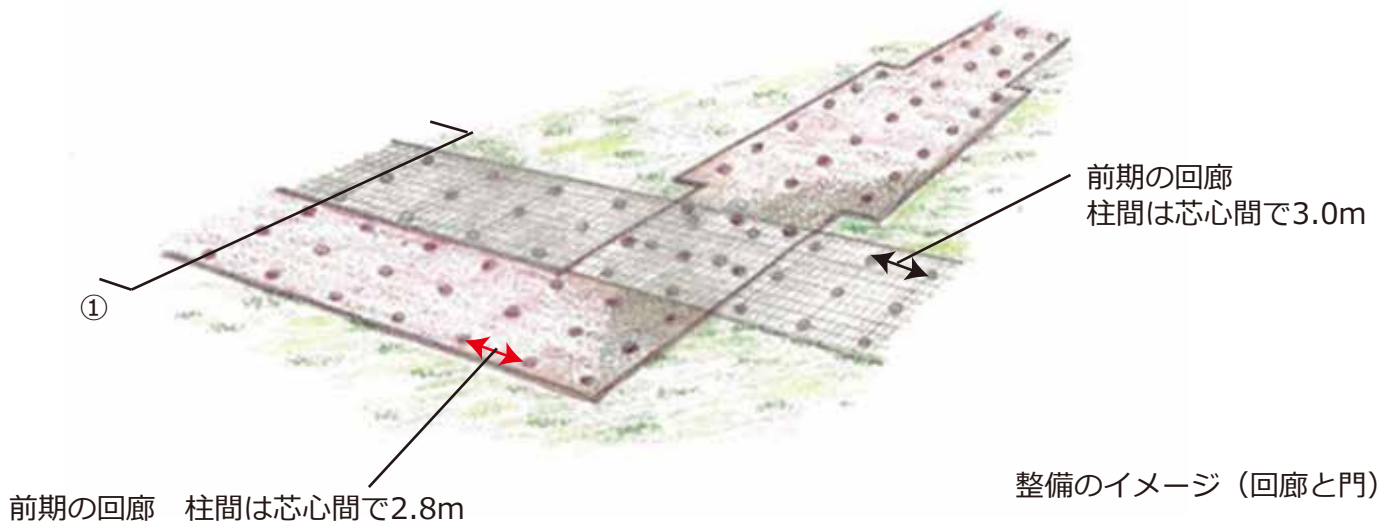


④前期の塀の断面図



⑤後期の塀の断面図



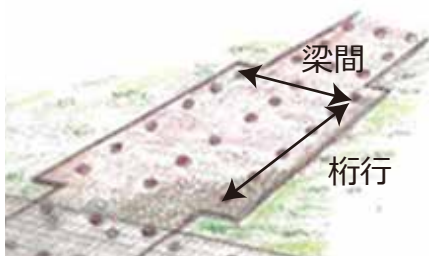


回廊のイメージ  
京都御所 回廊と門



回廊のイメージ  
京都御所 回廊

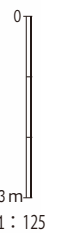
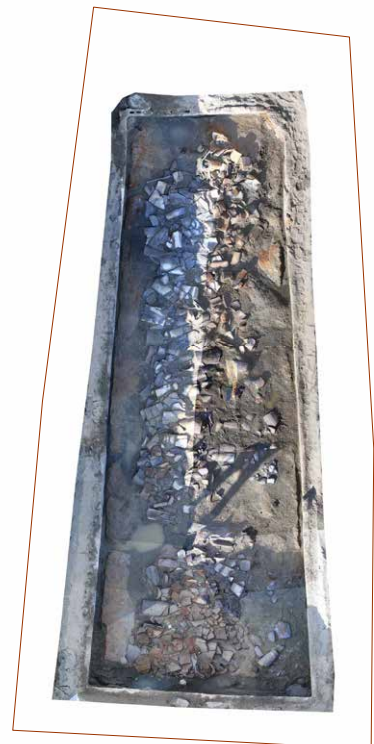
⑥前期門



桁行 (東西方向の柱間)  
2.7+2.7+3.8+2.7+2.7m  
梁間 (南北方向の柱間) 3.0+3.0m  
底の出は1.0m

⑦瓦堆積

後期難波宮の回廊の屋根瓦が崩れ落ちた場所。1200年前の屋根に葺かれた瓦がまとまって見つかり、当時のようすを復元する上にも貴重。



## 主な特定公園施設の設計・整備の仕様等について

本資料は、応募者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料です。詳細については、認定計画提出者と市が協議し決定するものとします。

### ■設計関係

	規格・数量	仕様
鳥瞰図	A 3 サイズ 3箇所程度	着色仕上げ

### ■整備関係

	規格	仕様
後期内裏正殿	本体上面の規模： 30.1m×15.2m 高さ：2.4m <sup>※</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>床面の周囲、および階段の両脇に高欄（H=0.9m、位置および外形の詳細は「2.遺構表示 後期難波宮内裏正殿」を参照）を設置</li> <li>本体床面に柱の跡（プレート可、直径 35 cm、44箇所）を表示</li> <li>床下の側（庇）柱間は白い壁（白壁の外観をもつもの。材質は問わない）で閉塞</li> <li>縁束（0.2m×0.2mの角柱、32箇所）を立て、縁を支える</li> <li>本体の材質 床板等（外部から視認できる部材）は合成木材 構造部（外部から視認できない部材）はアルミ</li> <li>高欄の内側に、転落防止柵を設置</li> <li>スロープを設置</li> <li>階段部の内側とスロープ部に、手すりを設置</li> <li>転落防止柵、スロープおよび手すりは、本体の材質とは異なるものとする</li> </ul>
瓦堆積遺構 （陶板焼付）	全体寸法： 最大 3 m×10m	<ul style="list-style-type: none"> <li>フルカラー写真</li> <li>表面は防滑仕上げ</li> </ul>
看板・案内板	約 1.2m×約 0.9m	<ul style="list-style-type: none"> <li>表示（印刷）手法は電子線硬化樹脂コーティング印刷板</li> <li>表示板素材はアルミ</li> <li>デザインの著作権は大阪市に帰属</li> </ul>
	約 1.2m×約 0.9m （斜板）	
	約 0.7m×約 1.0m	

注）整備にあたっては掘削制限がある為、基礎形状等に留意すること。

※後期内裏正殿は、本体規模の概ね 3/4 を特定公園施設として整備を予定しています。残 1/4 程度は、隣接する法円坂北特定街区の土地所有者が本整備内容に合わせ整備を予定しています。